

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部

名 前 加藤紘一

作成日 4 月 21 日

1. 教育の責任

湘南医療大学が属するふれあいグループの理念は、「人を尊び、命を問う予備、個を敬愛す、その考えのもとに保険・医療・福祉・教育を担当し、そして社会へ奉仕することを目指すもの」である。また、「やさしさと思いやりのある保険・医療・福祉・教育の実践、生命を全うしていただくための知識・技術の習得、その人らしさと個性を尊重し敬愛す」の三点を実践する。教員としては薬学・医療の領域において、個人個人を尊重した医療を実践でき、かつ、社会的な問題を科学的に解決するための基礎となる豊かな学識と優れた技術および高度な研究能力を有する医療人を育てる必要がある。私は薬剤師として必要な基礎知識および臨床検査、研究能力に必須となる知識・技術を指導するため、以下の科目を担当してきた。

担当科目：

- 「科学計算演習」(医療薬学科 1 年)
- 「分析化学 II」(医療薬学科 2 年)
- 「分析化学 III」(医療薬学科 3 年)
- 「分析化学実習」(医療薬学科 2 年)
- 「物理化学実習」(医療薬学科 2 年)
- 「早期臨床体験実習」(医療薬学科 1 年)
- 「医療薬学チュートリアル演習 I」(医療薬学科 2 年)
- 「薬学総合プレ研究」(医療薬学科 3 年)
- 「卒業研究 I」(医療薬学科 4, 5 年)
- 「後期臨床体験実習」(医療薬学科 5 年)

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

最も大切にしている理念は、「相手の視点に立てる薬剤師の育成」と「基礎知識の修得を疎かにしない人材の育成」である。湘南医療大学の理念に従い、やさしさと思いやりのある医療、個性を尊重した医療を実践するためには、個人個人の視点で物事を考えることができる能力が必要である。相手の立場になって考えるためには、相手を知ることが重要であり、そのためには高いコミュニケーション能力が必須となる。一般的に言われるような患者さんとの信頼関係を築くための、また、多職種との円滑な連携を図るための最低限なコミュニケーション能力にとどまらず、相手の考え方を知ったうえで相手に合わせて医療を考えることができる薬剤師を育成する必要があると考えている。そのうえで、基礎知識について疎かにしないように教育することを心掛けている。薬学部で学習する基礎系の科目は、臨床現場で活用する機会は少ないかもしれない。しかし、何か未知の問題に遭遇した時に解決するための礎となるのは基礎知識である。学生にはその必要性を理解し、学修を疎かにしない意識を持って欲しいと考えて教育に当たっている。

2) 理念をもつに至った背景

学生の指導をするにあたり、同じ方法で取り組みれば全員が理解できるとは限らない。個人個人に適した勉強方法や指導方法があり、個性や個人の能力に合わせて最適な指導を行う必要があることを感じている。これは、医療現場にも適応されと考えている。現場において、患者さん個人個人に合わせて医療を考えることができれば、最も理想的な医療ができるという想いである。相手の視点に立つというのは、患者さん個人の考え方や感じ方を理解したうえで医療に取り組むことに繋がる。薬剤師としては、服薬指導や処方監査をする際に、患者さん本人の個性を理解したうえで実施することが重要だと考えている。また、相手の視点に立ったうえで何ができるかを考えてためには、基礎知識がなくてはならない。このような医療が可能な薬剤師を育成するため、上記理念をもつに至った。

3. 教育の方法・戦略

分析化学に関する科目では、研究および臨床検査に関する分析技術についての基礎知識から結果の解析まで教授し、基礎から応用方法まで指導している。また、問題解決能力を鍛えるため、実際の実験データを提示して解釈の練習を行っている。実習科目では、より一層学生の考える能力を鍛えることができるよう工夫している。また、早期臨床体験実習や医療薬学チュートリアル演習Ⅰ、後期臨床体験実習では、学生の考えを尊重しつつ思考や議論が展開されるよう指導している。これらのような工夫により、国家試験に合格するための知識だけでなく、臨床現場や研究に携わった際に知識を活用して思考する能力を鍛えられるようにしている。

- 1) 分析化学に関する基礎から応用までの指導:基礎科目であるため、まずは基本的な原理を理解するために必要な基礎知識から説明を行っている。基礎知識の講義を行った後に、実験条件とデータを示して基礎知識を使って解釈・考察する方法を指導している。国家試験を意識するため、講義内で練習問題に取り組んでもらい、基礎知識と問題を解くことへの関連も教えるようにしている。また、講義毎に小テストを行うことにより復習を促し、理解を深める工夫をしている。
- 2) 実習での指導:分析化学実習では、実習書に記載する情報をあえて制限した。これにより、使用する試薬量や希釈の方法を学生自身が考えて実験を行うことになる。実習講義内でヒントを出す、詳細は一度考えてもらっている。間違えて進行してしまわないように、学生が考えた方法が適しているかを常に確認するようにしている。実習の課題では、学修効果の向上を狙って原理に関する課題を多めに出すようにしている。卒業研究Ⅰでは、学生と意見を交わしながら自ら考えて実験を進行する力が身につくように考えている。

3) 臨床系の科目における指導:実習や演習の科目に携わっていることもあり、学生の主体性を重視している。学生が何を聞きたいか、どのように議論を展開したいかを十分に把握した後、円滑に進行するようアドバイスをしている。特に教員の意思で学生の考え方や意見の方向性を縛ってしまわないことに留意している。

4) 最新情報の収集:教科書に掲載されている段階の情報だけでなく、常に最新の研究進捗状況について情報を収集し、知識を学生に還元できるように学会参加や論文講読を行っている。

4. 学習成果

授業評価アンケートの結果では、全項目において平均以上の評価を得ている。小テストが復習に役立っているとのコメントもあった。また、講義資料の見やすさや書き込みやすさ、講義の容量などについて改善点を訪ねても、現状のままで問題ないとの回答を得ている。

5. 改善のための努力

上記にも書いたように、改善点について学生から常に収集し、改善を加えている。学生が聞き逃しても後から見直しやすくなるように、講義資料の中で重要な箇所を今よりも強調していきたいと考えている。講義中に学生が考える時間を作るため、演習を追加する予定である。積極的に学生が参加できる体制を整える努力をしていく。

6. 今後の目標

短期目標:継続的な学修効果を得る方法の構築

依然として考えさせる問題や計算問題が苦手な学生が多いため、これまで以上の学修促進に向けて、演習の実施や計算問題の課題を作成し、継続的に学修してもらうための工夫を続行していく。また、小テストの点数などから効果測定を行い、定期試験までに対策を考える。

長期目標:研究を活用した学生の問題解決能力向上・研究能力の向上

卒業研究が始まったことから、今後は研究を通して講義では取り扱うことのできなかったような課題に対して学生と一緒に解決策を考えることにより、学生の問題解決能力向上および研究能力の向上を図っていく。

【添付資料】

- ・シラバス
- ・講義資料
- ・授業評価アンケート
- ・実習書